



ま と 四半的弓道の新たな展開と 小(児)・障がい者弓道の普及を

札幌市医師会 太田 耕平
札幌太田病院

四半的の歴史:は古い。永禄11年(1568年)、戦国時代のさなか、当時島津藩の統治下の飢肥城を攻略すべく、浮舟城主伊東義祐と、島津藩が「小越の合戦」で激突した。

この戦に、農民は自家製の竹の弓矢を持って参戦し、氣勢を挙げて島津藩を圧倒し勝戦に大いに寄与した。その後、島津藩に破れるも、豊臣秀吉に仕えた伊東祐兵が飢肥城を賜り、「小越し合戦」において武功のあった老将山田が国境防衛策として弓術を奨励し、農民のための射場を設け、氣勢を上げさせ、防備に役立たせたという(宮崎県四半的弓道連盟)。



提供：飯島邦彦氏
(宮崎県四半的弓道連盟事務局長)

四半的の長所:伊東飢肥が農民武道、つまり娯楽として「的射の定め」により、弓矢の所持を許可した。それは、「射程;4間半、弓の長さ;4尺5寸、的の直径;4寸5分」。全てが「4・半」であるため「四半的」といわれた。この地方の娯楽として広く老若男女に愛され、近年は弓技として心身の練磨に有効であるスポーツとして評価されている。

昨年8月にNHK-TVが日南地方の四半的を紹介。『これだ!』と膝を叩いた。

その理由は、①学生時代に弓道部に属し、弓の醍醐味を知り、日ごろから孫たちに弓の知恵を教えたいと願っていた。しかし、和弓は長く、弦も硬く、引分けに力を要し、巻き藁も大きく重く、弓道場も数少ないため、小学校高学年まで待たねばと思っていた。しかし、この四半的・弓であれば孫の世代にも可能性ありと想像したからである。②昔、弓道部で活動した仲間も卒業後、多忙と弓道場が少い不便さから弓道から永遠に離れてしまう無念さを防ぎたい願望もあった。

宮崎市からJR鈍行で1時間、実際に飢肥城内にある四半的射場を訪ね、心地よい夏の日差しを浴びながら親切な指導を受けつつ20射程体験した。型式・儀礼にこだわらない気安さがうれしかった。

日本弓道との違い:弓道諸流派を統合した日本弓道連盟方式より古く実戦的である。

- ①全てが4・半での大きさ長さで、扱いやすく、子供でも操作が可能である。
- ②距離も短く家庭内・庭先でも可能である。特に、巻き藁射は一般家庭内でも可能である。
- ③引分けた右手を顎の下に収さめ、引いた弦が右小鼻に着けるので引く距離が安定性する。
- ④的と矢と弦が右眼前に一直線上に並び照準が容易確実なことが日本弓道より優れている。
- ⑤引き分けが顎下までの短距離であり、弦で耳・頬・胸・前腕内側などを打つ恐れがない。
- ⑥離れは、右手指だけの「開き・返し」で単純である。右前腕を移動せず矢は安定する。
- ⑦右手に弓懸けを着けないために、弦と矢の感触が明瞭であり、離れも単純な動きで済む。
- ⑧押し手は真直ぐに押し、ひねりを加えず、弓返りしないため矢は一直線に進みやすい。
- ⑨射程が8.1mと短いため、安全を十分に確保すれば家庭内でも練習可能である。
- ⑩小児には短い日本弓道の矢が適し、近距離

の巻き藁射から始める。

①礼射以外では服装・履物・場所が自由であり庶民的な気楽さ、融和的雰囲気がある。

これらの諸条件は、子供でも主婦でも、高齢者、身障者（下半身の）にも気楽に弓矢を手にし、その醍醐味を経験するには優れている。

小(児)弓道:和弓は13~15Kgの強さがある。しかし小児にはその身長・体力に応じた弓矢と巻き藁の高さ、さらに射程距離も随意に変えるべきである。大人の介助・指導下により小児でも四半弓(3.7から4.4Kgの幅がある)を操作可能である。子供達が将来、正式の四半的、日本弓道、アーチェリーなどに関心を向け、これらの競技人口を増やすには適していると思われる。

昨年10月から琴似駅近くの当院会議室において、不登校とその合併症で当院に入院中の小・中学・高校生を対象に看護師同伴にて四半的弓の巻き藁射の指導を始めた。ここで本年4月、宮崎県四半的弓道連盟の飯島邦彦事務局長を個人的にお招きし四半的弓道のご指導をいただいた。巻き藁射、さらに7m、14m射を比較しつつ実射し、昔懐かしい感触を味わいつつ、多様な場所での弓矢の保管、事故防止など安全管理を厳密に検討してみた。

本年2月から、十分の安全管理のもと病院にて不登校の小・中・高校生数名に巻き藁射

と、あわせて、弓・矢のつく漢字〔引・弔・弘・佛・弱・強・張〕など、〔知・短・失・医・醫〕などの意味を指導した。院内保育園の卒園児(6歳)にお祝いとして「小弓の巻き藁射」を教えると喜んでた。

障がい者弓道:四半的弓は車椅子に坐った姿勢で可能であり、下半身の身障者や高齢者にも適している。先日、脊損による下半身障がい者に椅子上で坐射を指導してみた。何回かの巻き藁射の後に『緊張と解放感が素晴らしいですね』と満面の笑みで喜びの声を発して下さったことはうれしかった。これから増加する高齢者福祉への貢献を期待したい。

まずは安全教育・礼節から始めたい。わが国の伝統的文化・技術を守りつつ、新しい土地で新応用として小(児)・障がい者弓道を試行していきたい。猿から人間に進化した証である最古の道具である弓矢と、それを使った古代人の知恵と緊張感・心情を味わいたい。さらに、古い教え“光陰如矢”などを実体験し、日常生活に適度の緊張感をとりもどし、不登校・引きこもりなどの予防と、児童・青年の新しい生きがいとなることを祈っている。

いろいろとお教えいただいた守山勝馬様に感謝しつつ一文にまとめてみました。

文献：四半的弓道 教本改訂版

宮崎県四半的弓道連盟 2004 宮崎市

700兆円は誰が払うの？

札幌市医師会 小畑 博敬
麻生循環器内科

わが国の負債は700兆円、地方自治体を合わせると1,000兆円とも言われています。一体、この借金を誰が払うのでしょうか。これらのほとんどが、バブルを創造し崩壊させたことによって生じたものでありますから、債務者は間違いなくわれわれ現役世代であります(図1)。しかし、これらの負債が政治家や官僚たちの失策によって生じたものであり、われわれ個々人が自分で署名・押印をして作っ

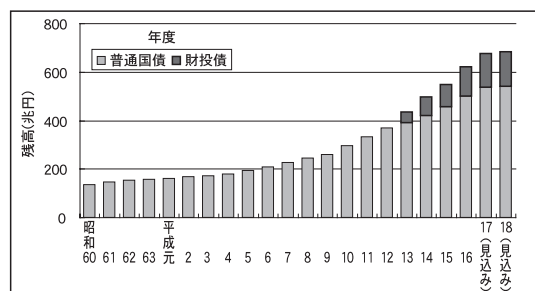


図1 国債残高の推移(財務省資料に基づき作成)

た負債でないためか、多くの国民は、自分たちの負債であるという認識に欠けているように思います。古今東西を問わず、借金をしたならば借金をした本人が返済するのがルールですが、莫大な負債があるにもかかわらず、国民の多くは他人事のように思っています。このままでは、巨額の負債を後世の人々に残してしまいます。何の抵抗もできない幼い子どもたちや、まだ産まれてもない子どもた

ちに、われわれの「付け」を回して良いものでしょうか。自分たちだけでは到底返済できないほどの負債をしてしまった以上、できる限りの返済をして、残った債務を後世の人々にお願いすることが、せめてものわれわれにできる償いであります。前世代の人々は、悲惨な戦争を体験し、戦後の何も無い状態から今日の繁栄の基礎を築いてくださいました。その後、われわれの世代がバブルを作り崩壊させてしまいましたが、幸いなことに、先人達が大きな財政赤字を残していなかったお陰で、われわれはバブル崩壊による不景気をなんとか乗り切ることができたのです。しかし、われわれの世代が多額の国の借金をこのまま残したならば、子や孫たちの世代が万が一の事態（経済不況、大災害、大凶作など）に遭遇した場合、彼らはそれを克服できるでしょうか。特に、近い将来高い確率で起こると予測されている関東・東海地方の大地震が起こったならば、日本はどうなるのでしょうか。財力の無い政府は何ら有効な対策を打てず、被災者は途方に暮れることでしょうか。子や孫たちがそのような悲惨な目に遭わないように、われわれ現役世代全員が、一丸となって国の負債を減らす努力をしなければならぬと考えます。

われわれ医師・医師会も誠実に対処しなければなりません。わが国のGDPに占める医療費の割合や国民負担率が他の先進諸国に比べて低いとか、純債務はさほど大きくないとか、無駄な公共事業が多いとか、特別会計には無駄な支出があるとか。このような事を論拠にして、医師会は公的医療費を増やすように主張してきましたが、われわれは、このようなことを言える立場にないと思います。もし、子や孫たちが大人であったならば、余分な財源が有るのなら、それを他に転用するのではなくて、「国の借金返済に回して」と言うに違いありません。莫大な借金がある以上、あらゆる分野で経費の削減を図り、財政を切り詰めてでも、負債を返済するのが当然です。社会保障費といえども聖域ではありません。そもそも、社会保障は国の富の反映でありますから、国の財政が危うい時には、公的医療レベルをある程度引き下げることが止むを得ないことでしょう。われわれが置かれた現状を考えれば、われわれ医師・医師会が世論に

訴え守るべきことは公的医療の拡大・増額ではなくて、公的医療の範囲を狭めてでも医療費の自己負担を下げ、受診抑制や医療を受けられない人をなくすこと（医療のセイフティネットを守る）ではないだろうか。

折しも、子どもたちの学力低下や道徳の乱れから教育基本法を改正する論議がなされていますが、道徳は本来、親・社会が子どもたちに実生活を通して教えるものであります。

「自分の作った借金は、自分で返す」この当たり前のことを実践せずして、われわれに道徳を語る資格などありません。また、巨額の債務を残したまま、20～30年後、われわれの孫の世代にわれわれの老後の面倒をみてもらおうなんて、倫理に反することではありませんか。

後世の人々から「利己主義世代」と非難されないように、われわれ現役世代は国の負債を減らすために最大限の努力をするべきでないでしょうか。



道 東

石狩医師会 御園生 潤

今年の2月下旬に一泊二日の旅程で、実に12年振りに道東周遊の旅に出た。札幌を早朝出発するJR特急「オホーツク1号」で5時間余りをかけて結氷した網走湖畔での自動車ラリーやワカサギ釣りをながめつつ網走入りし、ウトロでの流氷観賞、オジロワシ、アザラシの優雅な姿を堪能し、網走に投宿後、道東の代表的な観光路線である「釧網線169.1km」を走破し、釧路の街並みのすっかり変貌した姿、ステーションデパートの閉鎖、駅北口通路の封鎖など時代の流れを感じつつ、雄大な釧路湿原の冬景色と、途中駅の茅沼では線路際の餌場に寄り添う2羽の丹頂鶴の姿が従前と同じように認められた。釧路から途中の白糠までは、大好きな気動車キハ40の普通列車を利用し、ここで後発の「スーパーおおぞら」(振子特急283系)に乗り換え、高架化してすっかり変貌した帯広駅周囲の風景と馬蹄型のカーブや新狩勝トンネルの西口に近い「上落合信号場」でのトンネル内での列車待ち合わせなど、スケールの大きい「狩勝峠」の鉄道風景が健在であることが実感され、冬の道東の好天のもとで、12年という歳月の経過の重みを、つくづく感じて帰札した。

○

私が初めて道東の地に足を踏み入れたのが学部1年の昭和56年の大学祭期間中(6月)であった。旧型客車時代の急行「大雪」(517レ)に飛び乗り、一路道東を目指した。新旭川から石北本線に入ると路床規格が変わり、単調なややハイトーンな列車の走行音(ジョイント音)に変化し、道東路線に入ったことを実感した記憶がある。上川駅で上下の「大雪」の交換。目を覚ますと白滝村付近の霧の中を列車は走行しており、幻想的な世界が出現していた。この列車は、途中の北見からは通学客等の足の利便性を考慮し、普通列車となっていたが、2つ目の端野で列車待ち合わせ。上

り線を網走を朝一番に出た気動車急行「大雪」がさっそうと通過していった。いまだ、タブレット(通票)、腕木式信号機が健在の通票閉塞式をとっていた古き良き時代であった。美幌で下車後、路線バスで阿寒へ向かいパノラマラインを満喫した後、翌日、足寄経由で帯広から80系時代の特急「おおぞら」に乗りして帰札した。石勝線の開通は同年10月であったが、その直前の富良野、滝川回りの経路での食堂車も併結された楽しい列車の旅であった。野花南～滝里間も今や別ルートに切り替えられ、列車密度の増加に伴い設けられた一の坂信号場、幌岡信号場なども廃止され、今や昔日の物語となってしまった。

この後、大学院時代に至るまで、夏に冬に、観光で、また仕事で道東を訪れた回数は数え切れない。流水、原生花園、釧路湿原、知床横断、トドワラ、根室方面。列車で、愛車で、訪れた道東は、そのスケールの大きさから、私のフリークなエリアであることに今なお相違はない。

○

こうした約25年間の流れを顧みるにつけ、道東鉄道路線の変化が非常に著しい。石北本線のCTC化は昭和57年ころから始まっていたが、私が初冬に訪れた際に普通列車(キハ40)の運転士と列車待ち合わせの間に立ち話をしたことがある。この時点で、既に北見まではCTC化の工事が完了しており、気動車の運転士が、「ルベ(留辺蘂)まではあつという間だった」と工事の速さをつぶやいていたのが印象的であった。駅員無配置駅の増加による人件費削減、ポイント・信号機の置換によるセンターからのリモートコントロールがあつという間に進んだ。北見駅の構内の片隅に、その役割を終えた螺旋型のタブレットキャリアの受機がその使命を終え放置されていたのが、いかにも時代の推移を感じさせ象徴的であった。夜行の「大雪」もこの後14系客車となり、特急格上げ(「オホーツク」と改称)、この3月ダイヤ改正で臨時列車に格下げとなり、時代の変遷がうかがえる。

釧網本線からも長年親しまれてきた旧型客車、貨車を併結した「混合列車」が消え、人気の高かった気動車急行「しれとこ」も姿を消した。現在では、キハ40、54といったローカル列車と快速列車とノロッコ号などのレト

ロトレインが活躍するのみとなったが、沿線至る所に存在し、鉄道雑誌で紹介される「お立ち台」的な撮影スポットを訪れる鉄道ファンは幅広い年齢層に及んでいる。また、「ふるさと銀河線」の廃止も記憶に新しい。

○

北海道に振り子特急281系「スーパー北斗」(札幌～函館間)が登場したのは、平成6年3月であったが、その後、「スーパーおおぞら」にも運用され、曲線部分の通過速度のアップによる所要時間の短縮が図られた。石勝線開通により、そして振り子特急の登場で、札幌～帯広間は「空」の時代から完全に「JR」の時代へと変貌したと報じられていたのも記憶に新しい。

長い年月と巨額の費用を投資して完成した石勝線は、人里まれな道央の山間を走り抜けてゆく。乗車してみると分かるが、まさに「信号場」「長大トンネル」の連続である。現在の根室本線(釧路～新得)、石勝線の特急列車の運行本数は比較的多いが、今回の旅行でも、西庶路、常豊信号場、芽室、西新得信号場、広内信号場、東オサワ信号場、西早来信号場で上下の特急列車の交換が、ほぼ定時に行われた。比較的、距離間隔の短い駅・信号場の設置により、効率的なダイヤ作成と、ダイヤ混乱時の収束の効率アップに寄与していると思う。

かつて国鉄時代には14～20日間有効の「北

海道ワイド周遊券」が道外で発売され、カニ族を含む多くの若者たちが、路線網の削減前の国鉄路線の踏破にエネルギーを燃やした。この商品もいつしか消え、私個人としては道内でも購入可能な道東回遊券、そして今回利用した道東フリー切符(特急列車乗車可、5日間有効)へと変遷しつつある得割切符を利用して道東の地を訪ねてきた。

道東の夏も絶景である。かつてはマイカーを駆使して訪ねた、このようなスポットの夏の姿を今一度、この夏には鉄道で自分自身の目で確かめたいと思い、やはり道東フリークと同僚女性医師と思いは早、夏の道東の昨今である。



盛夏の釧路湿原を快走する、ありし日の急行「しれとこ」(バックは塘路湖)

国鉄釧網本線 塘路～茅沼間

(著者撮影) 1982年8月(昭和57年)

その他開催情報

※詳細については各連絡先にお問い合わせください。

■日時・場所	■主な演題および講師	■連絡先	■備考
北海道大学医学部ドクターヘリ普及講演会			
7月4日(火) 17:00～19:00 北海道大学 医学部第一講堂	「北海道におけるドクターヘリシステムの有用性と今後の展開の上での問題点」 NP0病院ヘリ救急ネットワーク理事長 元警察庁長官 松孝次	北海道大学医学部五年 庄司哲明 TEL(090)6444-4895 t-hukuda@yacht.ocn.ne.jp	事前申し込み不要
第23回糖尿病Up・Date 賢島セミナー "Updateな糖尿病ガイドラインへのナビゲーション—各種ガイドラインの効果的な活用法—"			
8月26日(土) 14:00～ 27日(日) 8:20～ 志摩観光ホテル	セミナーⅠ：糖尿病対策を生活習慣病からアプローチ セミナーⅡ：2型糖尿病を糖尿病治療薬からアプローチ セミナーⅢ：危険因子から糖尿病性合併症へアプローチ ほか	中部労災病院 堀田 鏡 ☎(052)652-5511(内2000)	参加費:50,000円 参加人数:100名 まで